

# 「ゴール型球技」における学習と日常を結び付け 自ら考え、判断し、表現する生徒の育成

－「ボールを持たないときの動き」に着目した指導資料の作成と活用を通して－

## 研究構想図

長期研修員 高橋 卓

学習と日常を結び付け、自ら考え、判断し、表現できる生徒

### 指導資料「目指せ！ゴールクリエイター！！」

#### 関係プレイを意識させる指導集・教材

カード、動画

- 技能向上カード
- 指導カード
- 動画資料

指導資料

- 指導計画
- 体系化整理表
- 指導例
- キーワード

ゴール型  
球技の  
ポイント

見る

判断  
する

動き  
出す

プレーヤーズナビゲーション

スペースウォッチⅠ・Ⅱ



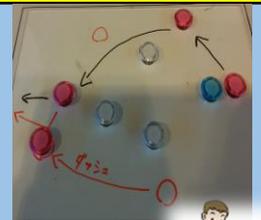
動く方向

パス方向



スペース

作戦盤



スペースを意識した動き

学習

ボールを持たないときの動き

指導

#### 教員の願い

- 学んだ事を発揮してほしい
- 動き方を考えてほしい
- 仲間と協働してほしい

#### 生徒の願い

- できるようになりたい！
- 真剣に取り組みたい！
- 仲間と協力したい！

# 授業実践

サッカー

スパースウォッチⅡ

バスケットボール

ドリルゲームで  
連携プレイを  
身に付ける

体の  
向き

プレーヤーズ ナビゲーション  
スパースウォッチⅠ

スパースウォッチⅡ

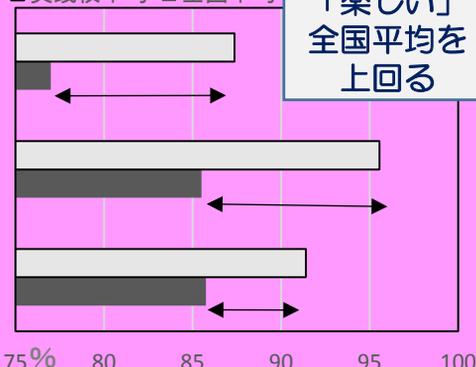
体の向き

メインゲームで  
スペースウォッチⅡ  
で仲間にスペースを  
知らせる

## 単元後アンケート結果

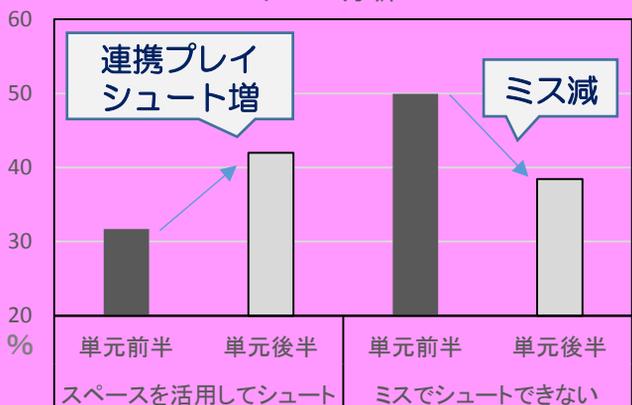
ゴール型球技  
「できた」  
ゴール型球技  
「楽しい」  
保健体育授業  
「楽しい」

□実践校平均 ■全国平均



「できる」  
「楽しい」  
全国平均を  
上回る

## ゲーム分析



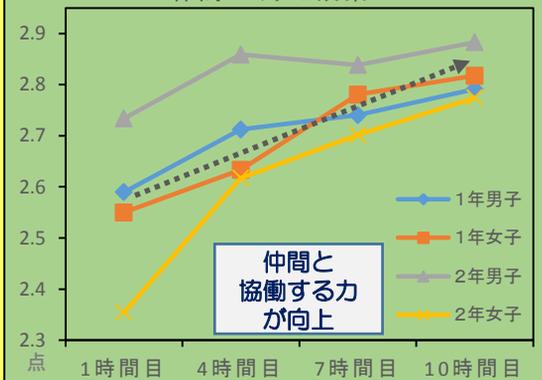
連携プレイ  
シュート増

ミス減

苦手だったけれど、やっていくうちにとても楽しくなった。技術面ではパスやシュートが上達した。積極的にボールを受けられるようになった。

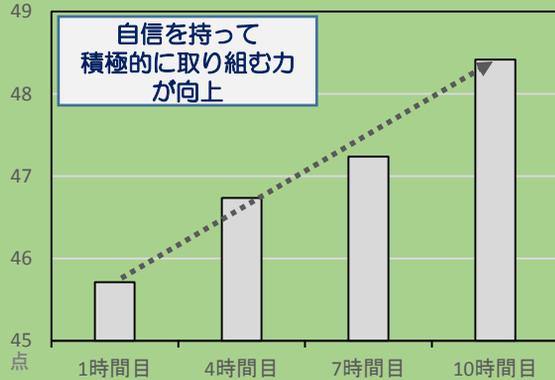


## 仲間づくりの成果



仲間と  
協働する力  
が向上

## 運動有能感の変化

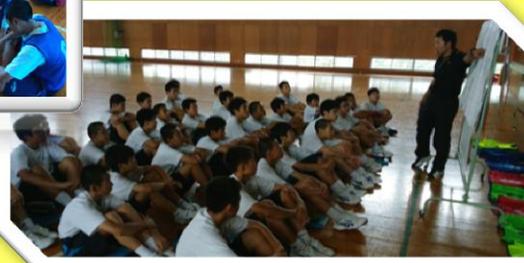


自信を持って  
積極的に取り組む力  
が向上

プレーヤーズナビゲーションは、パスの方向が分かりやすく役に立った。  
スペースウォッチⅠは、シュートを打つ場所としても目印になり分かりやすかった。



スペースウォッチⅡは、スペースを1つだけでなく、2つ3つと見付けることができた。  
そして仲間が教えてくれたスペースに動いてパスを受けることができた。



## 積極的に協働しようという意識の高まり

- 周りが良く見えるようになり、自分に何ができるかを考え、すぐに行動できるようになった
- パスをする時、友達に聞こえるように名前や返事を大きな声で出したので、自然と返事や挨拶がしっかりできるようになった
- 友達のことを考え行動し、助け合えるようになった

## 成果

連携プレイを身に付け、積極的に協働しようという意識が高まった

96.7%が日常への般化を実感

## 課題

生徒自ら教材を選択できるように工夫したい

## 提言

「ボールを持たないときの動き」に着目した学習が、日常への意識や行動にも結び付いていく可能性